

14. 災害に強いまちづくり

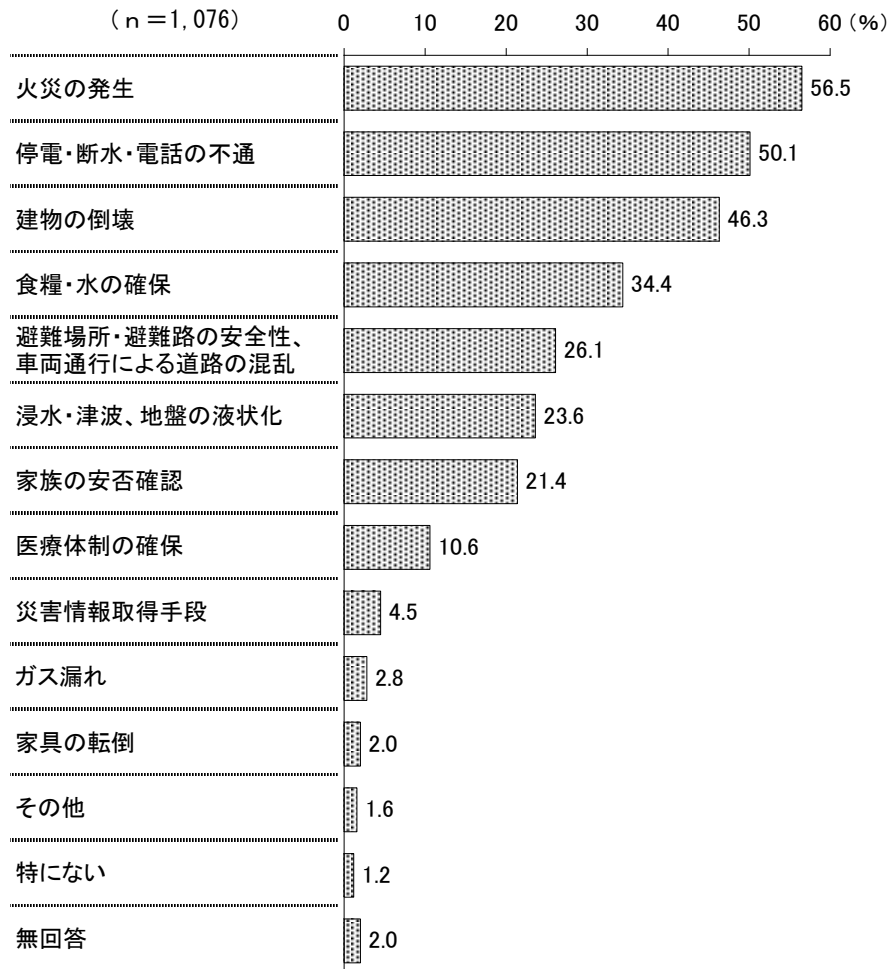
(1) 大震災発生時に不安だと思うもの

◇「火災の発生」が6割近く

問23 今後、東京に大震災が発生した場合、特に不安だと思うものは何ですか。

(○は3つまで)

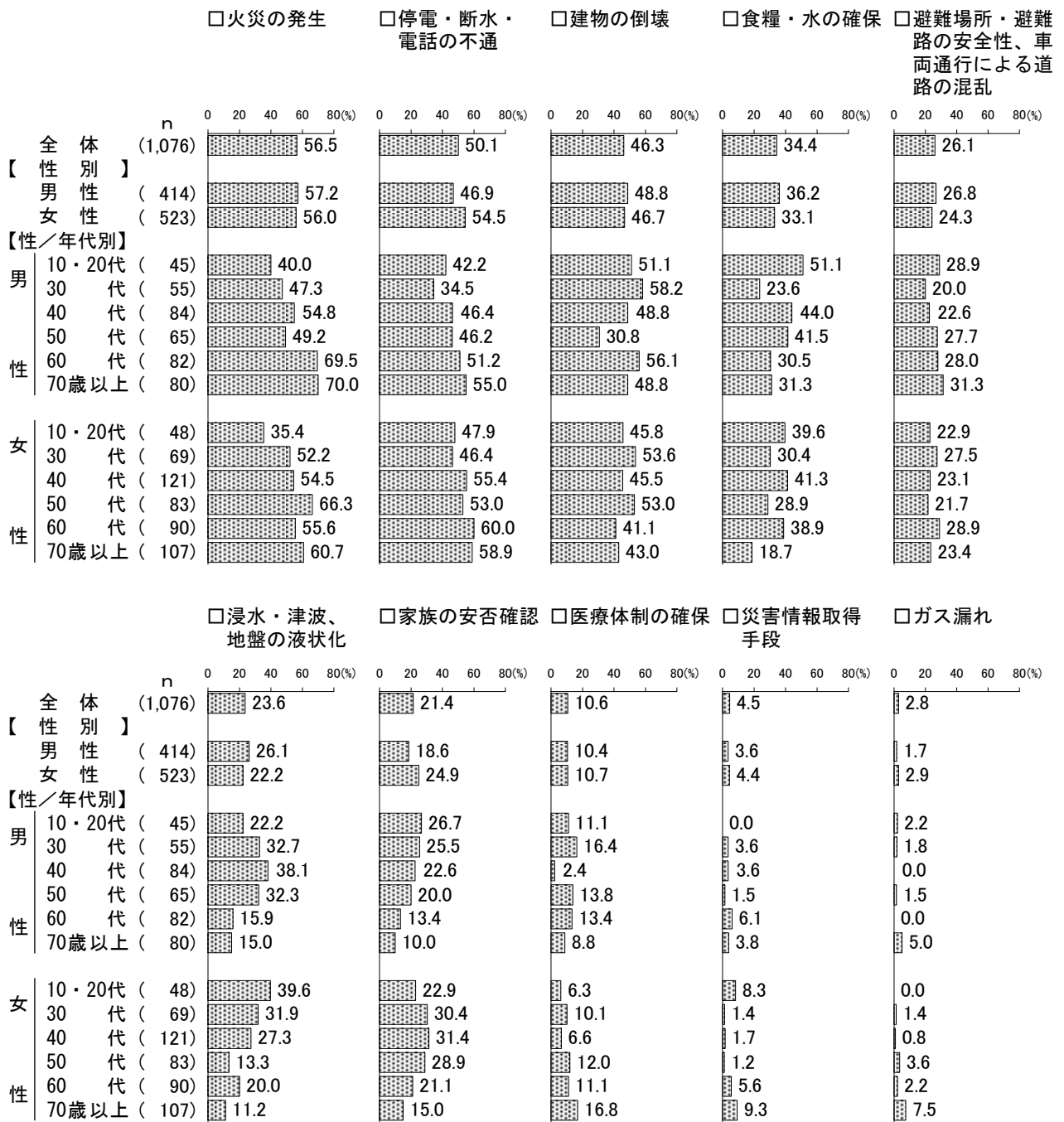
図14-1-1



東京に大震災が発生した場合、特に不安だと思うものを聞いたところ、「火災の発生」(56.5%)が6割近くで最も高く、次いで「停電・断水・電話の不通」(50.1%)、「建物の倒壊」(46.3%)、「食糧・水の確保」(34.4%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「トイレ」、「治安の悪化」などがあげられている。(図14-1-1)

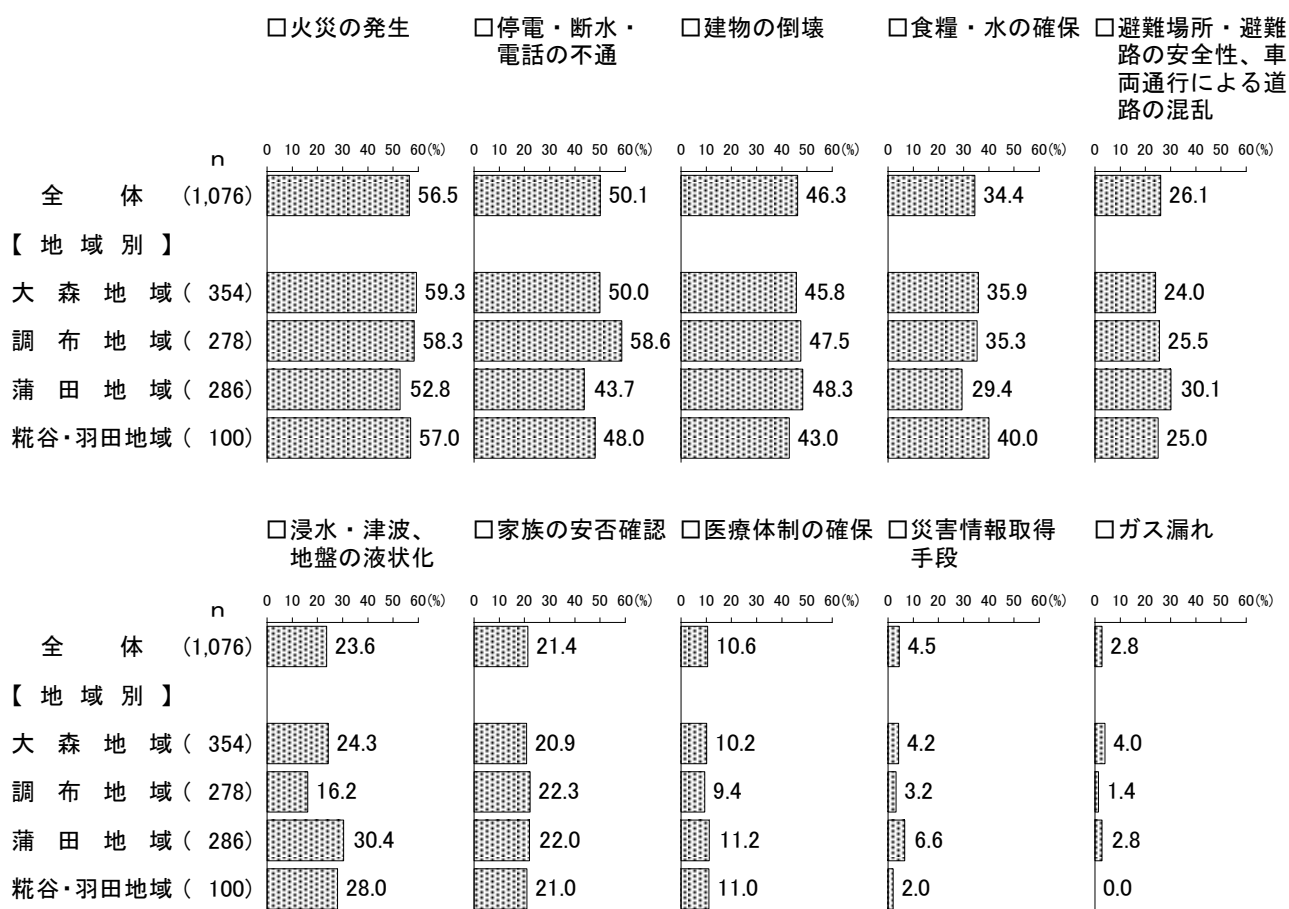
図14-1-2 大震災発生時に不安だと思うもの一性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、「停電・断水・電話の不通」は女性（54.5%）が男性（46.9%）より7.6ポイント、「家族の安否確認」は女性（24.9%）が男性（18.6%）より6.3ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「浸水・津波、地盤の液状化」は男性（26.1%）が女性（22.2%）より3.9ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「火災の発生」は男性の60代（69.5%）と70歳以上（70.0%）で7割と高くなっている。「停電・断水・電話の不通」は女性60代（60.0%）で6割と高くなっている。「建物の倒壊」は男性30代（58.2%）で6割近くと高くなっている。（図14-1-2）

図14-1-3 大震災発生時に不安だと思うもの—地域別（上位10項目）



上位10項目を地域別で見ると、「停電・断水・電話の不通」は調布地域（58.6%）で6割近くと高くなっている。「食糧・水の確保」は糎谷・羽田地域（40.0%）で4割と高くなっている。「浸水・津波、地盤の液状化」は蒲田地域（30.4%）で3割と高くなっている。（図14-1-3）

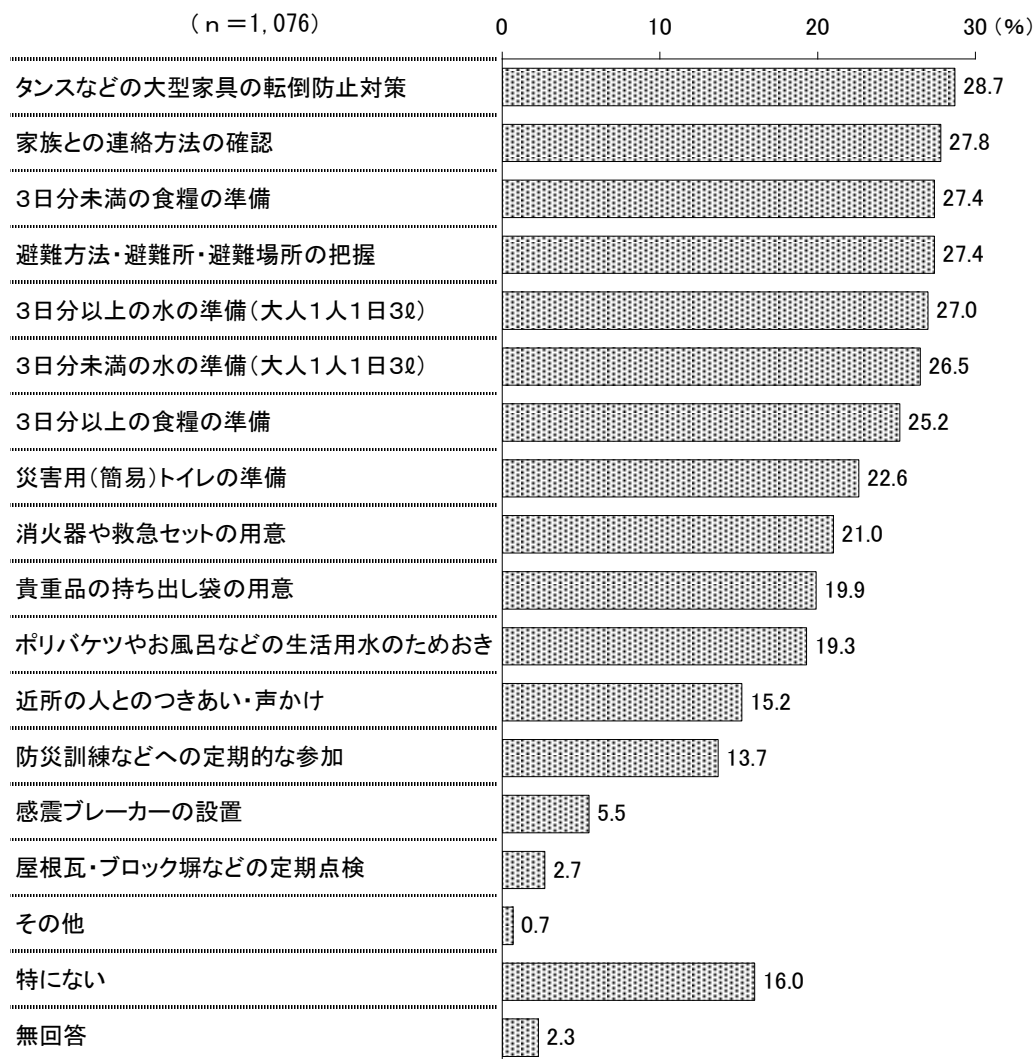
(2) 震災対策の実施状況

◇「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」が3割近く

問24 国の中央会議では、「自助※1」「共助※2」の重要性を踏まえて備蓄を推奨しています。
あなたの家庭で、大地震に備えて普段から行っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

- ※1 自助：災害発生直後、「自分の命と安全は自分で守ること」が防災の基本であり、自分が怪我をしなければ大切な家族を守ることができるということ
 ※2 共助：地域を守ることは自分や家族を守ることにつながるため、隣近所の協力や地域で支え合い、助け合うことが大事であるということ

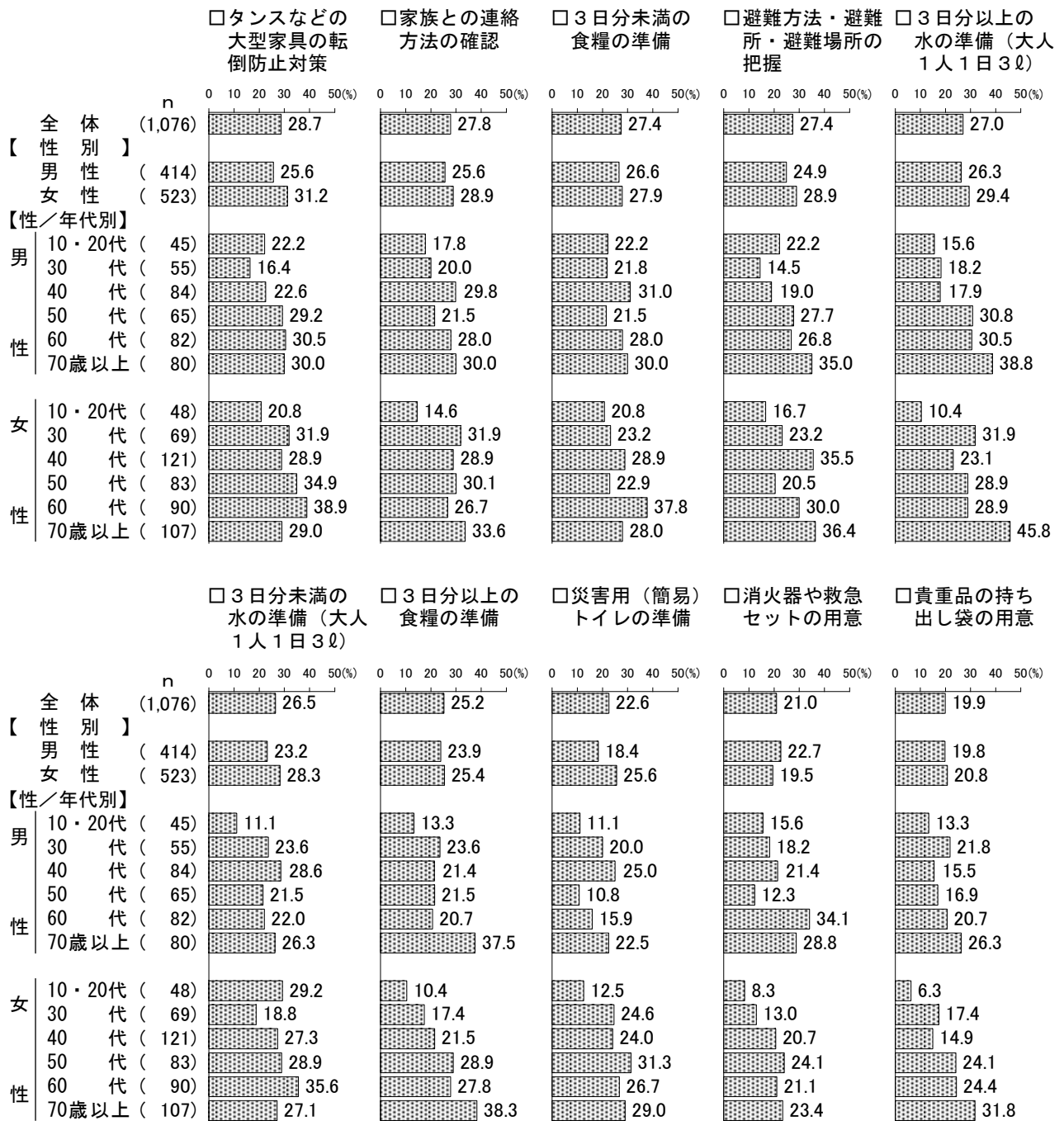
図14-2-1



大地震に備えて普段から行っていることを聞いたところ、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」(28.7%)が3割近くで最も高く、次いで「家族との連絡方法の確認」(27.8%)、「3日分未満の食糧の準備」と「避難方法・避難所・避難場所の把握」(ともに27.4%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「卓上コンロ、ヘルメット、テント、靴の用意」などがあげられている。(図14-2-1)

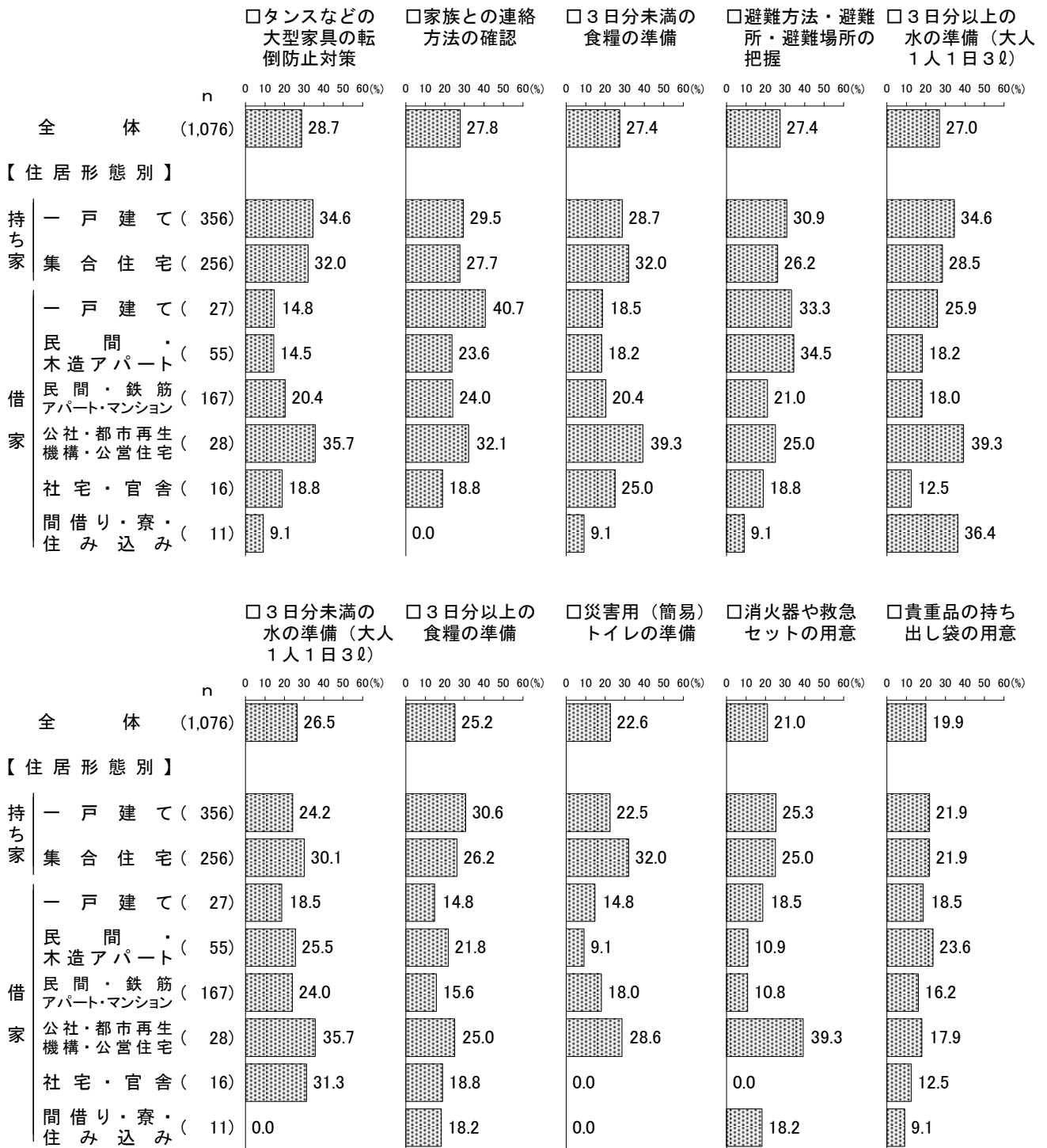
図14-2-2 震災対策の実施状況－性／年代別（上位10項目）



上位10項目を性別で見ると、多くの項目で女性が男性を上回っており、「災害用（簡易）トイレの準備」は女性（25.6%）が男性（18.4%）より7.2ポイント、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は女性（31.2%）が男性（25.6%）より5.6ポイント、それぞれ高くなっている。

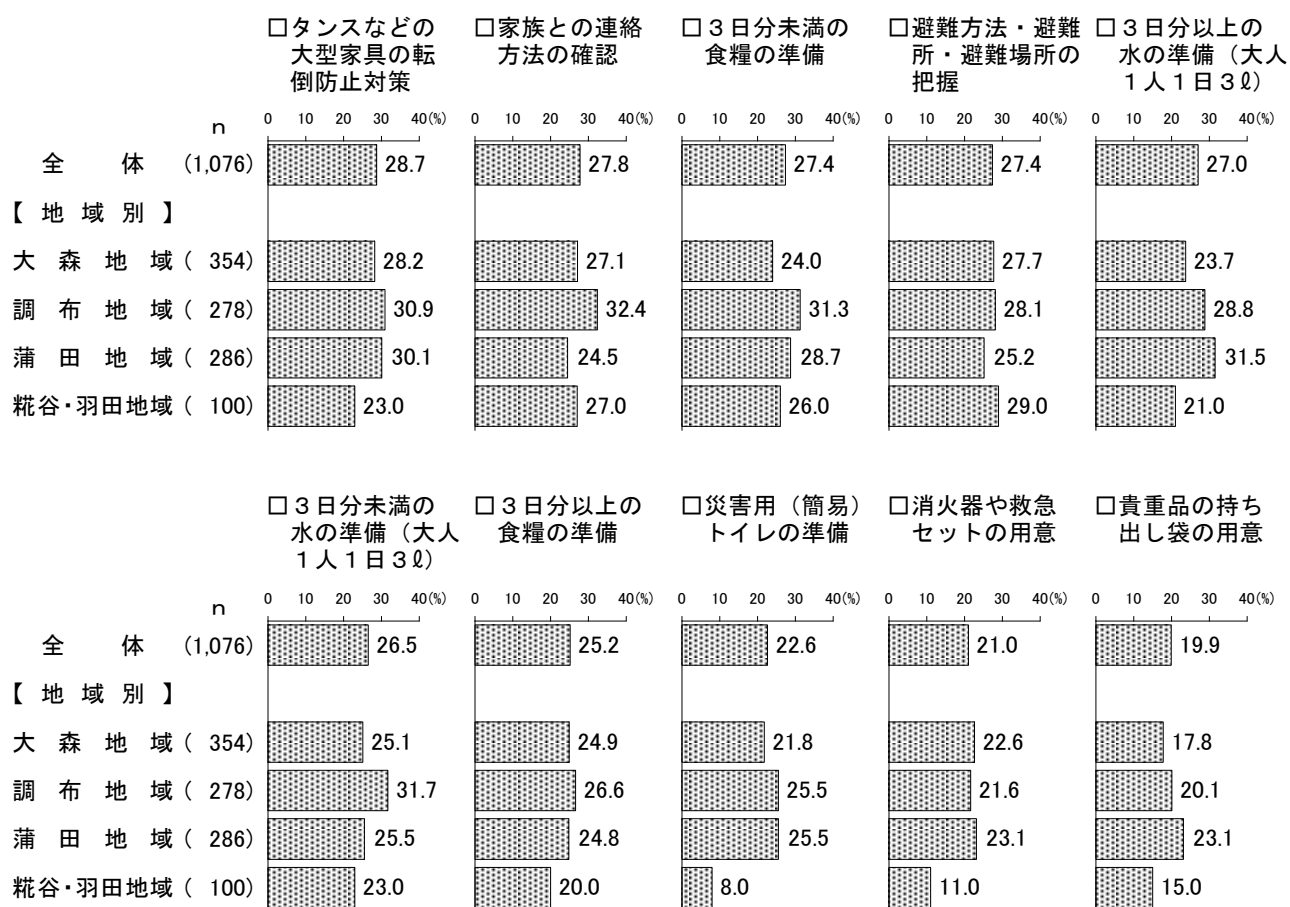
性／年代別で見ると、「タンスなどの大型家具の転倒防止対策」は女性60代（38.9%）で4割近くと高くなっている。「3日分未満の食糧の準備」は女性60代（37.8%）で4割近くと高くなっている。「3日以上の水の準備（大人1人1日3ℓ）」は女性70歳以上（45.8%）で4割半ばと高くなっている。（図14-2-2）

図14-2-3 震災対策の実施状況—住居形態別（上位10項目）



上位10項目を住居形態別で見ると、「家族との連絡方法の確認」は借家／一戸建て（40.7%）で約4割と高くなっている。「3日分未満の食糧の準備」は借家／公社・都市再生機構・公営住宅（39.3%）で約4割と高くなっている。（図14-2-3）

図14-2-4 震災対策の実施状況—地域別（上位10項目）



上位10項目を地域別で見ると、「家族との連絡方法の確認」は調布地域（32.4%）で3割を超えて高くなっている。「3日以上の水の準備（大人1人1日3ℓ）」は蒲田地域（31.5%）で3割を超えて高くなっている。「3日分未満の水の準備（大人1人1日3ℓ）」は調布地域（31.7%）で3割を超えて高くなっている。（図14-2-4）

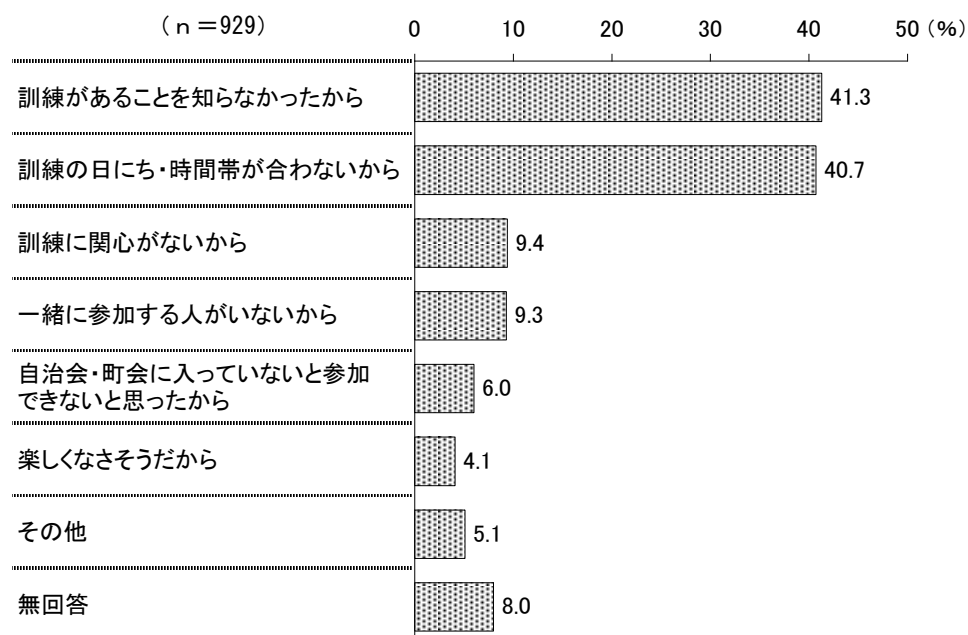
(3) 防災訓練に参加していない理由

◇「訓練があることを知らなかったから」が4割を超える

(問24で、「防災訓練などへの定期的な参加」に○をつけなかった方に)

問24-1 防災訓練に参加していない理由は何ですか。(○はいくつでも)

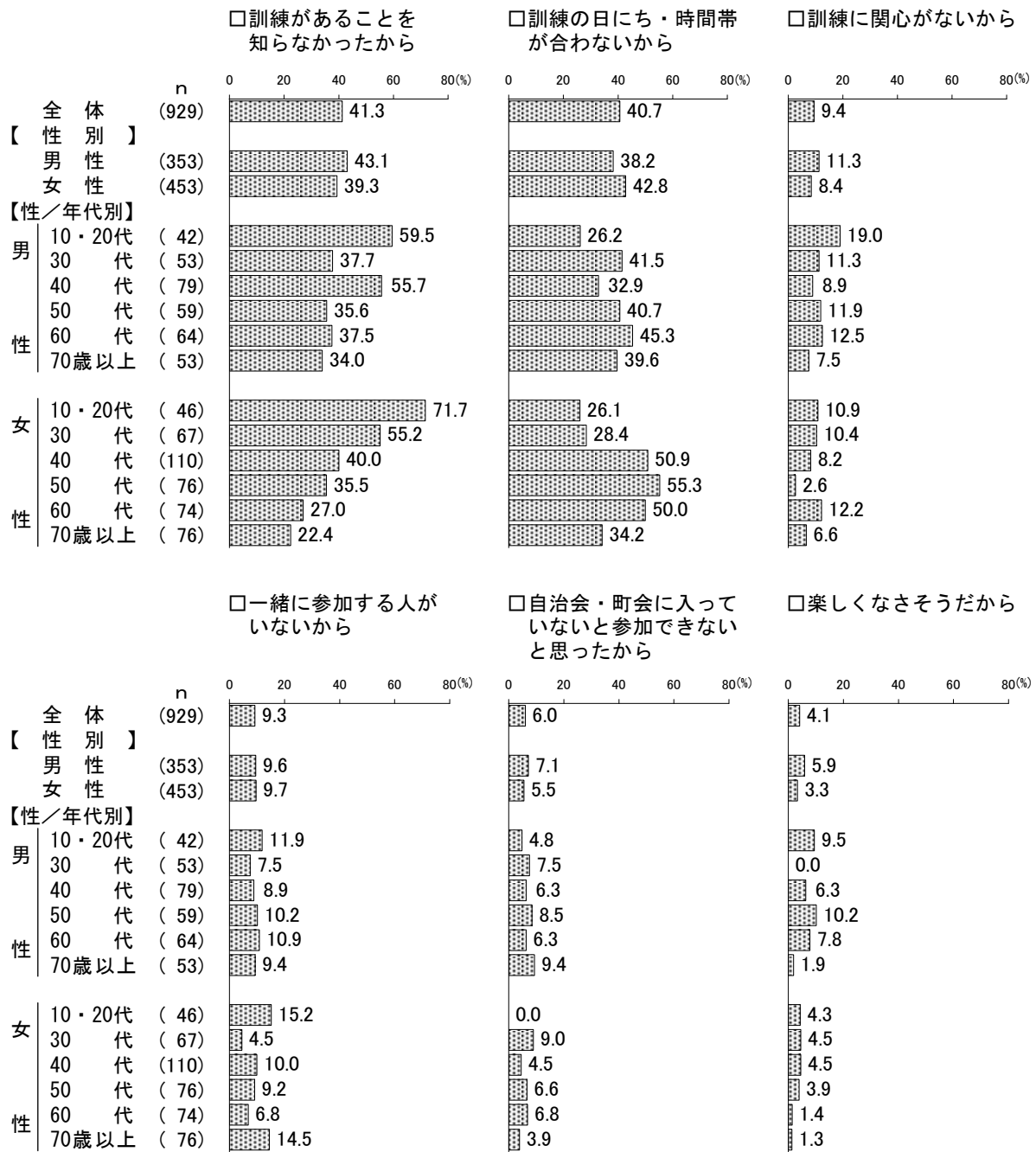
図14-3-1



大地震に備えて普段から行っていることとして「防災訓練などへの定期的な参加」と答えなかった人(929人)に、防災訓練に参加していない理由を聞いたところ、「訓練があることを知らなかったから」(41.3%)が4割を超えて最も高く、次いで「訓練の日にち・時間帯が合わないから」(40.7%)、「訓練に関心がないから」(9.4%)、「一緒に参加する人がいないから」(9.3%)などの順になっている。

「その他」への回答として、「仕事で忙しいから」、「健康上の理由で」、「体が不自由だから」などがあげられている。(図14-3-1)

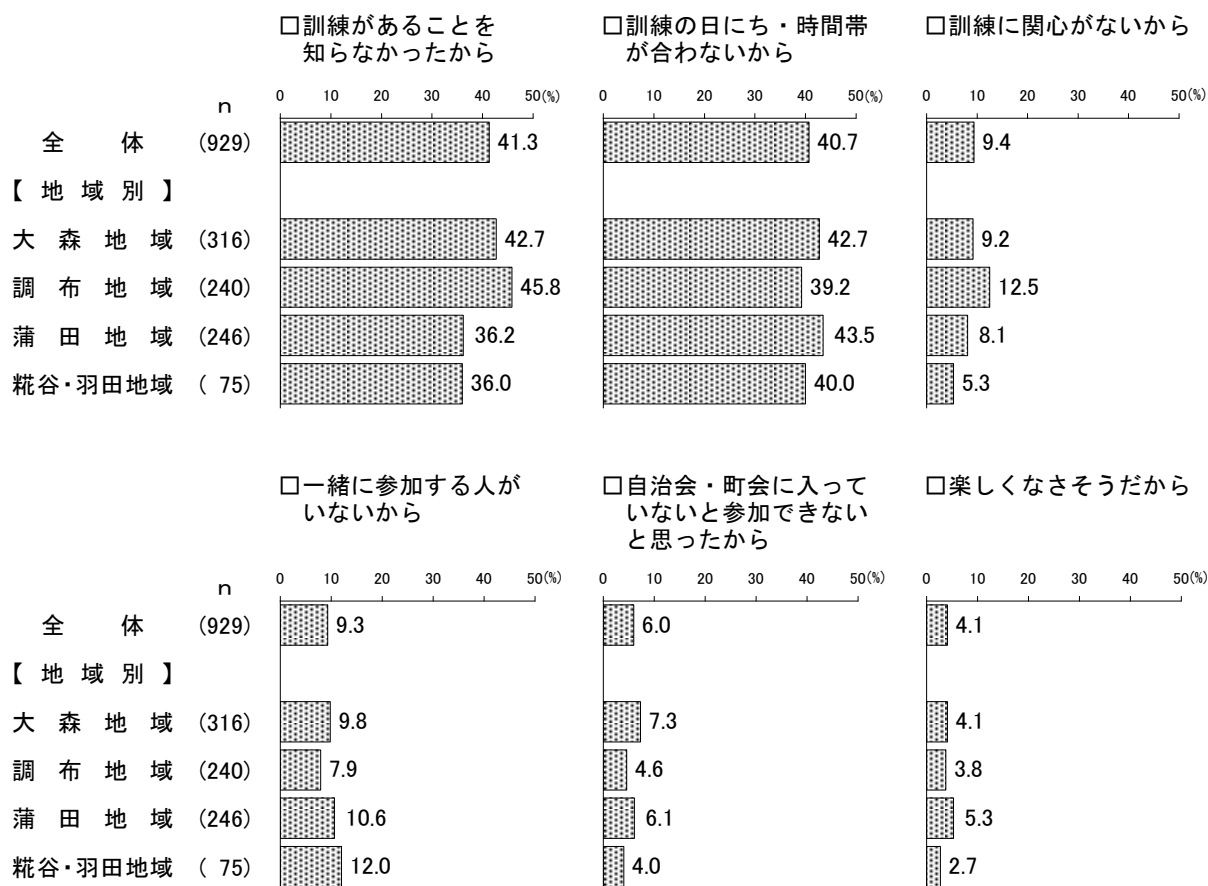
図14-3-2 防災訓練に参加していない理由－性／年代別



性別で見ると、「訓練の日にち・時間帯が合わないから」は女性（42.8%）が男性（38.2%）より4.6ポイント高くなっている。一方、「訓練があることを知らなかったから」は男性（43.1%）が女性（39.3%）より3.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「訓練があることを知らなかったから」は女性10・20代（71.7%）で7割を超えて高くなっている。「訓練の日にち・時間帯が合わないから」は女性50代（55.3%）で5割半ばと高くなっている。（図14-3-2）

図14-3-3 防災訓練に参加していない理由—地域別



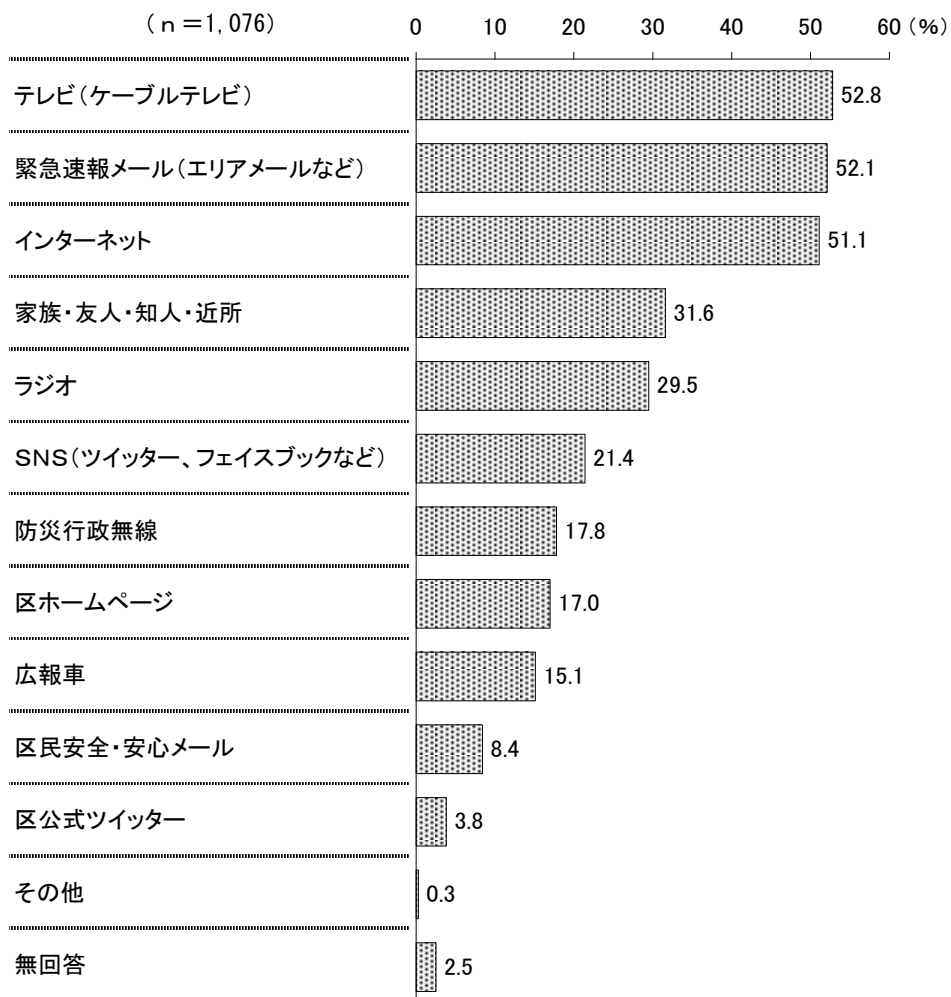
地域別でみると、「訓練があることを知らなかったから」は調布地域（45.8%）で4割半ばと高くなっている。「訓練の日・時間帯が合わないから」は蒲田地域（43.5%）と大森地域（42.7%）で4割を超えて高くなっている。（図14-3-3）

(4) 災害情報の入手手段

◇「テレビ（ケーブルテレビ）」、「緊急速報メール（エリアメールなど）」、「インターネット」が5割を超える

問25 災害時に、災害情報をどの手段で入手しますか。（〇はいくつでも）

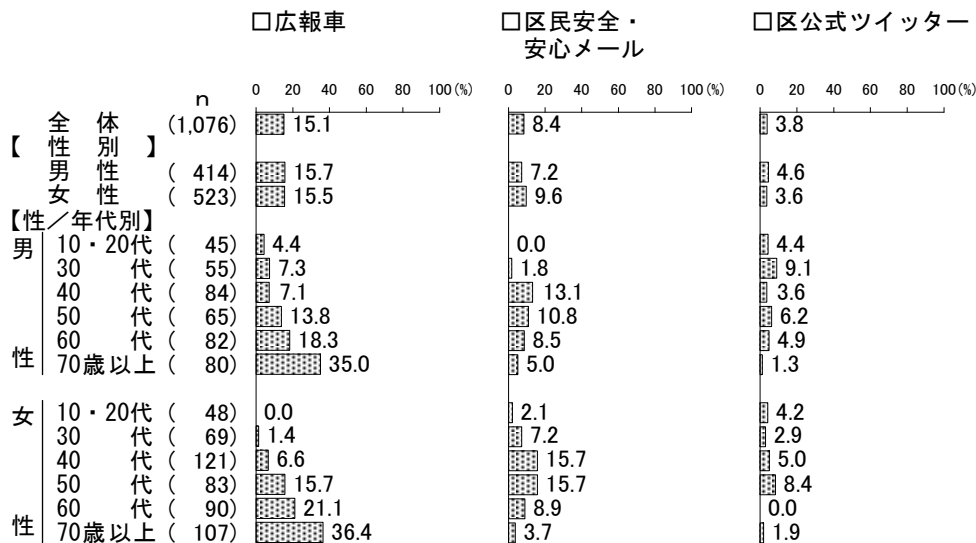
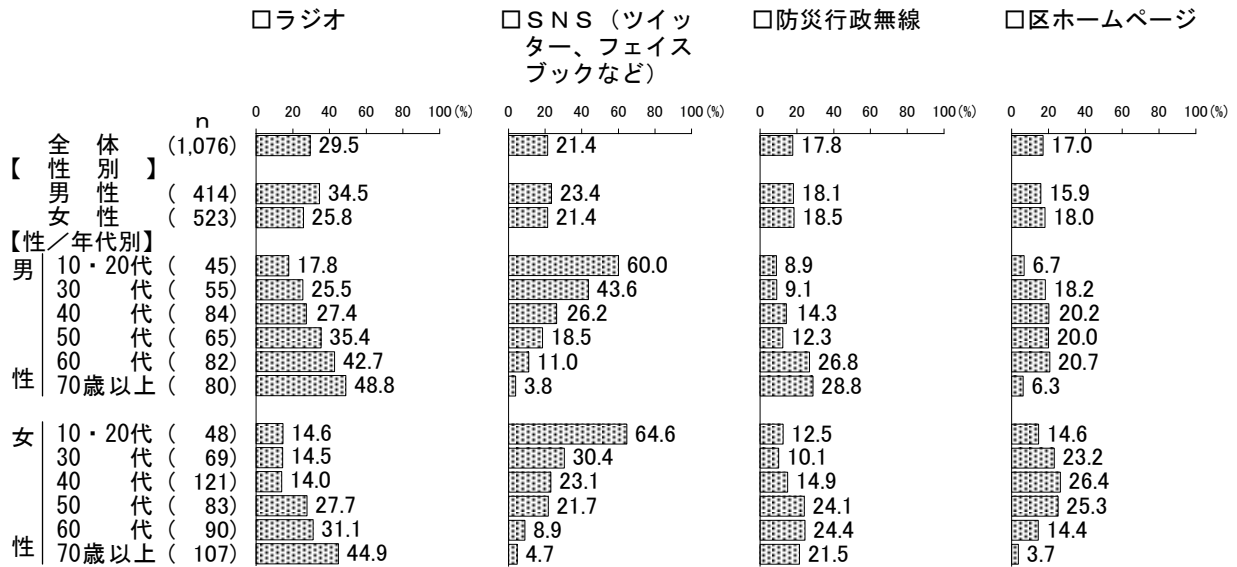
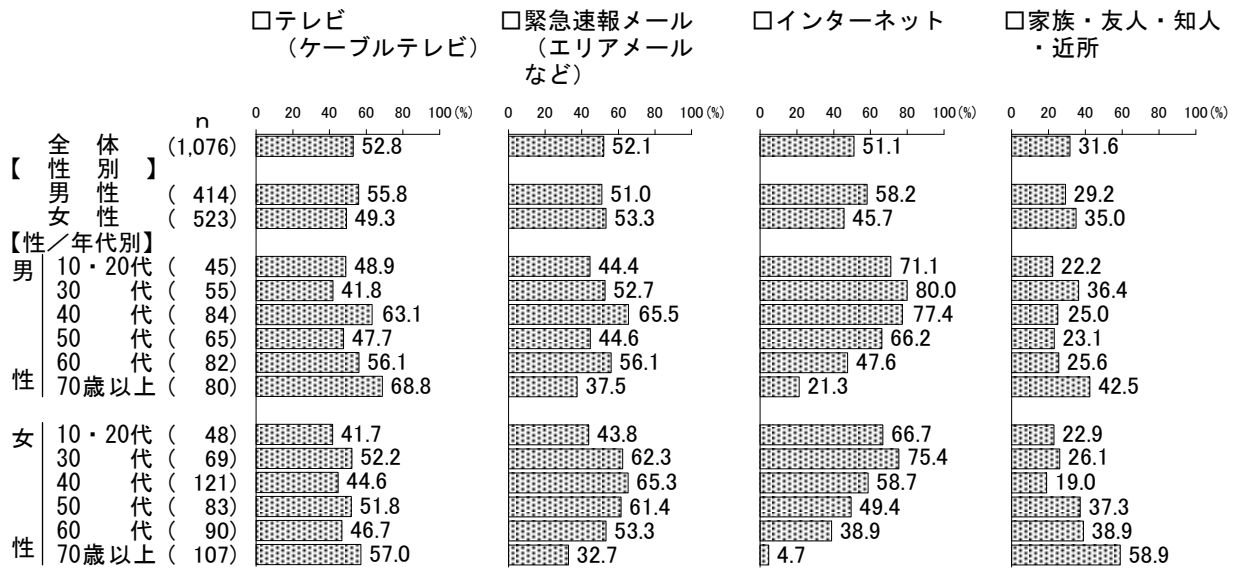
図14-4-1



災害情報の入手手段を聞いたところ、「テレビ（ケーブルテレビ）」（52.8%）、「緊急速報メール（エリアメールなど）」（52.1%）、「インターネット」（51.1%）が5割を超えて高く、次いで「家族・友人・知人・近所」（31.6%）、「ラジオ」（29.5%）などの順になっている。

「その他」への回答として、「会社からの連絡」などがあげられている。（図14-4-1）

図14-4-2 災害情報の入手手段－性／年代別



性別で見ると、「インターネット」は男性（58.2%）が女性（45.7%）より12.5ポイント、「ラジオ」は男性（34.5%）が女性（25.8%）より8.7ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「家族・友人・知人・近所」は女性（35.0%）が男性（29.2%）より5.8ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「テレビ（ケーブルテレビ）」は男性70歳以上（68.8%）で7割近くと高くなっている。「インターネット」は男性30代（80.0%）で8割と高くなっている。「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）」は男女ともに年代が低くなるほど割合が高く、女性10・20代（64.5%）と男性10・20代（60.0%）で6割台となっている。（図14-4-2）